

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-192758

(P2005-192758A)

(43) 公開日 平成17年7月21日(2005.7.21)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 B 1/05

A 4 7 B 13/08

F I

A 4 7 B 1/05

A 4 7 B 13/08

テーマコード (参考)

3 B 0 5 3

審査請求 未請求 請求項の数 10 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2004-1471 (P2004-1471)

(22) 出願日 平成16年1月6日(2004.1.6)

(71) 出願人 000001351

コクヨ株式会社

大阪府大阪市東成区大今里南6丁目1番1号

(74) 代理人 100085338

弁理士 赤澤 一博

(72) 発明者 坂井 伸孝

大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内

(72) 発明者 藤木 武史

大阪市東成区大今里南6丁目1番1号 コクヨ株式会社内

Fターム(参考) 3B053 PA03 PB05 PC08

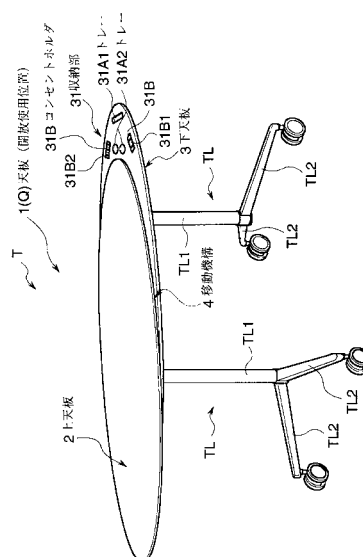
(54) 【発明の名称】 天板

(57) 【要約】

【課題】コンパクトな構造で、天板面の拡張のみならず物品の収納機能をも兼ね備えた天板を提供する。

【解決手段】主として物品の載置面となる上面を有する上天板2と、その下面側に配置される下天板3とを有する二重天板構造を有する天板1において、上天板2によって下天板3が上方から隠蔽された通常使用位置Pと下天板3の上面の一部が上方へ開放される開放使用位置Qとの間で上天板2と下天板3とを相対的に移動させる移動機構4を設け、開放使用位置Qにおいて上方へ開放される下天板3の露出部位に、天板1上又はその周囲での作業に付帯して使用される物品を収納可能な収納部31を設けた。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

主として物品の載置面となる上面を有する上天板と、該上天板の下面側に配置される下天板と、前記上天板によって下天板が上方から隠蔽された通常使用位置と下天板の上面の一部を上天板に覆われることなく上方へ開放する開放使用位置との間で前記上天板と下天板とを相対的に移動させる移動機構とを具備し、前記開放使用位置において上方へ開放される下天板の露出部位に、天板上又はその周囲での作業に付帯して使用される物品を収納可能な収納部を設けていることを特徴とする天板。

【請求項 2】

前記移動機構が、前記上天板における上面の高さ位置を維持した状態で上天板と下天板とを相対的にスライド移動させるものである請求項 1 記載の天板。 10

【請求項 3】

前記移動機構が、前記上天板と下天板とを一方向に可逆的に相対スライド移動させるものである請求項 2 記載の天板。

【請求項 4】

前記移動機構を、前記下天板の上面に上方へ開口させて形成し又は上天板の下面に下方へ開口させて形成したガイド溝と、該ガイド溝内を移動するように上天板の下面又は下天板の上面に設けられたスライダとから構成している請求項 1、2 又は 3 記載の天板。

【請求項 5】

前記ガイド溝が、下天板又は上天板の長手方向に沿って形成した長溝状をなすものであり、前記スライダが、前記長溝状のガイド溝に沿って上天板又は下天板に取り付けられ上天板又は下天板の長手方向と合致する方向に長手寸法を有する部材である請求項 4 記載の天板。 20

【請求項 6】

前記ガイド溝を形成した下天板又は上天板に、当該ガイド溝に連通するスリットを有し該ガイド溝と同一方向に延びる規制部材を設け、該規制部材と前記スライダとをスライド移動可能且つ上下移動不能に係合させて前記上天板と下天板との上下方向への離間を規制する上下離間規制部を形成している請求項 4 又は 5 記載の天板。

【請求項 7】

前記上天板と下天板との上下方向への離間を規制する上下離間規制部を具備している請求項 2、3 又は 4 記載の天板。 30

【請求項 8】

前記収納部の上端を、前記下天板の上面と略同一高さ位置に設定している請求項 1、2、3、4、5、6 又は 7 記載の天板。

【請求項 9】

前記収納部が、ペン等の小物類を収納し得るトレイである請求項 1、2、3、4、5、6、7 又は 8 記載の天板。

【請求項 10】

前記収納部が、電源用又は情報用コンセントを収納し得るコンセントホルダである請求項 1、2、3、4、5、6、7 又は 8 記載の天板。 40

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、テーブルに適用される天板に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

テーブル（デスクを含む、以下同）の天板において、上天板と下天板とを上下に重合させ、両者を相対的に移動し得るように構成したものが従来より考えられている（例えば、特許文献 1 参照）。同文献に記載の天板は、上天板（上板）と下天板（下板）とを有する二重天板であって、上天板を下天板に対して水平回転又は水平スライドさせることによっ 50

て、上天板の上面のみならず下天板の上面をも上方へ露出させて、物品を載置するための天板面を拡張しようとするものである。

【特許文献1】特開平9-224746号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

オフィスに設置されるミーティング用等の大型テーブルには、そのテーブルを用いた作業において用いられることが多い筆記具や指図用ポインタ等の小物類、あるいは電源用又は情報用コンセントを収納しておくスペースがないため、小物類の収納具を別途に用意したり、床面や壁面に設けられているコンセントから天板上までケーブルを引き延ばさなければならぬという不具合があり、このような機能を効率的にテーブルに付帯させてほしいというユーザの要望がある。ところが、上述のような従来の二重天板では、露出させた状態にある下天板の上面は上天板の上面と同じく通常为天板面としての機能、すなわち物品を載置する機能しか有しておらず、ユーザの希望を満たすものではなかった。この場合、天板の下面側に然るべき引出等を設けることも上述した不具合の一解決策として考えられるが、その引出のために天板の下方空間が狭められることになるため、特に多人数が天板下空間に脚を入れて作業するようなミーティング用のテーブルに引出を設けることは適切ではない。また、特に上天板を水平回転させるような構造では、狭く限られたスペースしか確保できないオフィス等では、上天板を十分に回転させて所望の機能を果たさせることが困難であり、単に天板面を拡張するという目的で下天板を露出させるように上天板を引き出した場合には、上天板の下面側に設けられている補助脚を利用しなければ、上天板の安定を図ることができないという問題が生じ得る。

10

20

【0004】

そこで本発明は、以上のような問題に鑑みて、二重天板構造を有する天板において、コンパクトな構造にして天板面の拡張のみならず物品の収納機能をも実現し得る天板を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

すなわち、本発明の天板は、主として物品の載置面となる上面を有する上天板と、この上天板の下面側に配置される下天板と、上天板によって下天板が上方から隠蔽された通常使用位置と下天板の上面の一部を上天板に覆われることなく上方へ開放する開放使用位置との間で上天板と下天板とを相対的に移動させる移動機構とを具備し、開放使用位置において上方へ開放される下天板の露出部位に、天板上又はその周囲での作業に付帯して使用される物品を収納可能な収納部を設けていることを特徴としている。ここで、「天板上又はその周囲での作業に付帯して使用される物品」とは、例えばペンをはじめとする文具や指図用ポインタ等に代表される小物類、電源用や情報用のコンセント等を意味し、それらの物品を収納可能な「収納部」には、上述の例でいえば小物類を収納するトレイ、コンセントホルダ等が該当する。さらに、トレイの一態様としての灰皿等の物品を収納する機能を有するものは「収納部」の概念に含まれる。

30

【0006】

このような構成の天板であると、通常使用位置においては物品を載置するという天板本来の機能を奏するのに加えて、上天板と下天板とを開放使用位置まで相対移動させるだけで上述のような収納部が上方へ開放された状態で表出するため、物品を載置するだけでなく、通常使用位置では天板上やその周囲で使用される物品を効率的に隠しておき、開放使用位置ではそれら物品を使い勝手よく取り出すという優れた機能を天板に付与することができる。したがって、本発明を引出を付帯させるのに適切でない大型のミーティングテーブル用に適用した場合に、とりわけ機能的で優れた天板を適用することができることとなる。なお、移動機構による上天板と下天板との相対的な移動方向は特に限定されるものではない。

40

【0007】

50

このような天板において、主たる物品の載置面たる上天板の上面の使い勝手を開放使用位置においても通常使用位置の場合と同等にするためには、移動機構を、上天板における上面の高さ位置を維持した状態で上天板と下天板とを相対的にスライド移動させるものとすることが望ましい。

【0008】

さらに、狭いスペースにおいても上天板と下天板との相対移動を可能とするとともに、その操作性も簡便なものとするためには、移動機構を、上天板と下天板とを一方向に可逆的に相対スライド移動させるものとするのが好ましい。

【0009】

この場合、ガイド溝を下天板又は上天板の長手方向に沿って形成した長溝状をなすものとして形成し、スライダを、この長溝状のガイド溝に沿って上天板又は下天板に取り付けられ上天板又は下天板の長手方向と合致する方向に長手寸法を有する部材とすることで、上天板と下天板との相対的なスライド動作をスムーズ且つブレのないものとするとともに、特に上天板又は下天板が木製天板である場合にはこのスライダを取り付けた方の反りを移動機構の構成部材を有効利用しつつ好適に防止できることとなる。

10

【0010】

さらに、ガイド溝を形成した下天板又は上天板に、そのガイド溝に連通するスリットを有しガイド溝と同一方向に延びる規制部材を設け、この規制部材とスライダとをスライド移動可能且つ上下移動不能に係合させて上天板と下天板との上下方向への離間を規制する上下離間規制部を形成すれば、上天板と下天板との相対的なスライド移動の安定化と上下方向への離間を防止しつつ、規制部材を設けた側の下天板又は上天板の反りをも防止することが可能となる。

20

【0011】

なお、このような構成に限らずとも、上天板と下天板との必要な相対移動のみを実現しつつ両天板の上下離間を防止するには、天板に、上天板と下天板との上下方向への離間を規制するための適宜の上下離間規制部を設けるとよい。

【0012】

また、移動機構の存在によって天板全体の厚さが過大とならないようにして、コンパクト化を図るには、移動機構を、下天板の上面に上方へ開口させて形成し又は上天板の下面に下方へ開口させて形成したガイド溝と、そのガイド溝内を移動するように上天板の下面又は下天板の上面に設けられたスライダとから構成することが有効となる。

30

【0013】

さらに、下天板に収納部を設けても天板全体の厚さに変更を生じず、コンパクトな構造を維持するためには、収納部の上端を、下天板の上面と略同一高さ位置に設定することが好適である。

【0014】

なお、適切な収納部としては、ペン等の小物類を収納し得るトレイや、電源用又は情報用コンセントを収納し得るコンセントホルダを挙げることができるのは上述したとおりである。

【発明の効果】

40

【0015】

本発明に係る天板は、上天板と下天板との二重天板構造を有し、さらにそれらを相対的に移動させる移動機構を備えており、この移動機構によって上天板と下天板とを、それらが上下に重合された通常使用位置と下天板が部分的に上方へ開放されて当該下天板に設けた収納部が露出される開放使用位置との間で相対移動させるように構成してものである。そのため、通常使用位置では上天板の上面が物品を載置するという天板本来の機能を発揮し、開放使用位置では上天板の上面による物品載置機能に加えて、下天板の収納部にペンや指図用ポインタ等の小物類、或いはコンセントホルダ等を好適に収納するという機能を発揮する。すなわち、斯かる天板は、物品を載置するだけでなく、通常使用位置では収納部内の物品を隠しておき、必要なときにのみ上天板と下天板とを相対的に移動させてそれ

50

ら物品を取り出すことができることになり、引出を設けにくいミーティングテーブル用に適用した場合に機能的で有用な天板を提供ことが可能である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0016】

以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して説明する。

【0017】

図1及び図2に示す本実施形態の天板1は、多人数での会議や作業に適したミーティングテーブル（以下、「テーブル」と略称する）Tの天板として適用したものである。ここでは天板1を、その一側端部において脚柱TL1及び複数の脚羽根TL2を具備する一対の脚体TLに支持させることによりテーブルTを構成したものを示しているが、天板1の支持構造は特に限定されるものではなく、片方又は両方の脚体として袖構造体や脚板、或いはその他一般的なテーブルの脚として利用されるものを適用しても構わない。以下、天板1の構成について具体的に説明する。

10

【0018】

天板1は、上天板2と下天板3とを上下に重ね合わせた二重天板構造を有するものであり、上天板2と下天板3とを相対的に移動させる移動機構4を備えている。本実施形態ではこの移動機構4によって、一対の脚体TLに支持された下天板3に対して上天板2が水平方向にスライド移動可能としている。具体的に上天板2のスライド移動は、図1に示すように下天板3と略完全に重なり合った通常使用位置Pと、図2に示すように水平方向へずれて下天板3の上面が部分的に上方へ露出される開放使用位置Qとの間で双方向で行われる。そして、開放使用位置Qでは、図2に示すように下天板3の露出部位において、下天板3に形成した収納部31が上方へ開放されるようにしている。ここで本実施形態では収納部31として、ペン等の小物類を収納し得るトレイ31A1、31A2と、電源用コンセント31B1及び情報用コンセント31B2を収納し得るコンセントホルダ31Bを適用している。

20

【0019】

上天板2及び下天板3は、図1、図2及び図3に示すように、共に略等しい平面視形状を有するものであり、上述した通常使用位置Pにおいては下天板3が上天板2によって上方から略完全に覆い隠されることになる。本実施形態では、これら上天板2及び下天板3として、平面視概略楕円形状をなす適宜厚さの木製天板を利用しており、下天板3の下面側両側端部においてそれぞれ適宜の天板受け部材（図示省略）を介して一対の脚体TLを取り付けている。また、下天板3の一方の脚体TL側における側端部には、その上面を部分的に窪ませて形成したトレイ31A1（図示例では角形）及びトレイ31A2（同、丸形）を形成するとともに、上下に貫通させた角穴からなるコンセントホルダ31Bを形成している。このようにすることで、収納部31の上端を下天板3の上面と略一致させ、収納部31が下天板3と上天板2との空隙に進入しないようにして天板1の構造のコンパクト化を図っている。なお、このようなトレイ31A1、31A2に限らず、下天板3の該当部位を上下に貫通させた穴や上述のような窪みに皿状の部材を嵌め込んでトレイとすることもできるし、トレイ自体の形状も特に限定されるものではない。また、図示例ではコンセントホルダ31Bに電源用コンセント31B1及び情報用コンセント31B2を個別に装着済の状態で表しているが、電源用・情報用が一体となったコンセント等の一般的なコンセントを装着するようにしても構わない。

30

40

【0020】

移動機構4は、図3、図4及び図5に示すように、上天板2を下天板3に対して水平スライドさせるための機構である。具体的にこの移動機構4は主として、下天板3に形成したガイド溝32と、上天板2に取り付けたスライダ21とから構成される。ガイド溝32は、下天板3においてその平面視形状である楕円形の長軸方向、すなわち下天板3の長手方向に沿って延びるように上下に貫通させた長溝状の孔である。本実施形態では斯かるガイド溝32を、下天板3の中央部から一側端部側に偏らせて2箇所平行に形成している。なお、この2つのガイド溝32は、下天板3の短軸方向を前後方向とした場合の前端部

50

と後端部とに形成してある。一方、スライダ 2 1 は、上述のガイド溝 3 2 に対応して上天板 2 の下面に取り付けた 2 つの長尺な部材であり、その長手寸法をガイド溝 3 2 の長手寸法の約 2 / 3 程度にしている。具体的にスライダ 2 1 は、2 本の L 字金具 2 1 1、2 1 1 と、これら L 字金具 2 1 1、2 1 1 間に設けられるスペーサ 2 1 2 とをボルト 2 1 3 によって連結した構成を有している。各 L 字金具 2 1 1 は、水平片 2 1 1 a を上天板 2 の下面にビス止めするとともに、垂下片 2 1 1 b をガイド溝 3 2 内に上方から侵入させたものである。スペーサ 2 1 2 は、L 字金具 2 1 1、2 1 1 の長手方向において間欠的に配置（図示例では等間隔に 3 個配置）したブロック状をなす部材であり、水平方向に貫通するネジ孔 2 1 2 a に L 字金具 2 1 1 の垂下片 2 1 1 b を貫通させたボルト 2 1 3 を締め込むようにしている。このような構成に基づいて、本実施形態における移動機構 4 は、スライダ 2 1 をガイド溝 3 2 内でスライド移動させることに伴って上天板 2 を下天板 3 に対してスライドさせるようにしている。

10

【0021】

ここで、このままの構成では上天板 2 が下天板 3 から上方に離間する虞があるため、それを防止すべく天板 1 に、上述の移動機構 4 の構成を利用した上下離間規制部 5 を設けている。この上下離間規制部 5 は、図 3、図 4 及び図 6 に示すように、下天板 3 においてガイド溝 3 2 に沿って取り付けられた規制部材 3 3 と、スライダ 2 1 に固定したストッパ 2 2 とから構成される。まず規制部材 3 3 は、ガイド溝 3 2 と略同じ長手寸法を有する長尺なチャンネル状をなす金具であり、ガイド溝 3 2 を跨いだ状態で下天板 3 の下面にビス止めされている。さらに規制部材 3 3 の前後方向中央部には長手方向に延びるように窪ませた溝部 3 3 1 を形成しており、この溝部 3 3 1 に、通常使用位置 P と開放使用位置 Q との間の上天板 2 の移動距離に略等しいスリット 3 3 2 を上下に貫通させて形成してある。一方、ストッパ 2 2 は、スライダ 2 1 を構成する一対の L 字金具 2 1 1、2 1 1 間に溶接等により固定したストッパ本体 2 2 1 と、このストッパ本体 2 2 1 の下面に開口するように形成したネジ孔 2 2 1 a に締着されるボルト 2 2 2 とから構成される。このボルト 2 2 2 の頭部には、規制部材 3 3 のスリット 3 3 2 の開口幅よりも広幅の鍔部 2 2 2 a が設けられており、ボルト 2 2 2 を規制部材 3 3 の下方からスリット 3 3 2 に挿入してストッパ本体 2 2 1 のネジ孔 2 2 1 に螺着するようにしている。本実施形態ではストッパ 2 2 を、スライダ 2 1 の隣接するスペーサ 2 1 2 の間に合計 2 個設けている。このようにすることで、鍔部 2 2 2 a が規制部材 3 3 に下方から当接することとなって、上天板 2 の下天板 3 からの上方への離間が規制されることになる。

20

30

【0022】

以上のように、テーブル T に適用された本実施形態の天板 1 は、上天板 2 と下天板 3 とを上下に重合した二重天板構造を有し、移動機構 4 によってこれら上天板 2 と下天板 3 とを相対移動、より具体的には下天板 3 に対して上天板 2 を移動可能な構成としたものである。そして、上天板 2 によって下天板 3 が上方から覆い隠された通常使用位置 P では、上天板 2 の上面を載置面とした通常のテーブル T の天板としての機能を果たすことができ、上天板 2 を移動させて下天板 3 の上面の一部を露出させた開放使用位置 Q では、当該下天板 3 の露出部位に設けた収納部 3 1 の一態様であるトレイ 3 1 A 1、3 1 A 2 にペン等の文具や指図用ポインタ等の小物類を出し入れしたり、同じく収納部 3 1 の一態様であるコンセントホルダ 3 1 B に装着した電源用コンセント 3 1 B 1 や情報用コンセント 3 1 B 2 にプラグを差し込んだりするといった機能を発揮することができる。なお、トレイ 3 1 A 1、3 1 A 2 に収納した小物類やコンセントホルダ 3 1 B に装着した電源用コンセント 3 1 B 1 や情報用コンセント 3 1 B 2 は、通常使用位置 P においては上天板 2 によって隠しておくことができるし、開放使用位置 Q においても上天板 2 の上面を載置面として利用するだけでなく、載置面を下天板 3 の上面における露出部位のうち収納部 3 1 以外の部位にも拡張することができる。すなわち、斯かる構成の天板 1 であれば、物品を載置するという通常の天板としての機能に、天板 1 の周囲での作業で用いられる物品を収納するという機能を付加することができる。このことは、特にテーブル T を、通常は収納機能を有さないミーティングテーブルとして使用する場合に非常に便利である。

40

50

【0023】

さらに、収納部31の上端を、下天板3の上面と略同一高さ位置に設定しているので、収納部31が下天板3の厚さ範囲内に収まることになり、天板1全体の厚さに変更を生じずコンパクトに収納機能を確保することができる。

【0024】

特に、移動機構4に基づく上天板2の下天板3に対する移動を、上天板2の高さ変更を伴わない双方向水平スライド移動としているため、上天板の上面の載置面としての使い勝手を通常使用位置Pでも開放使用位置Pでも良好なものとすることができ、狭い室内空間でも容易に通常使用位置Pと開放使用位置Qとの変更を行うことができる。

【0025】

さらに、移動機構4は、下天板3に形成した長溝状をなすガイド溝32と、このガイド溝32内を移動するように上天板2に取り付けたスライダ21とから構成しているので、天板1全体の厚みをあまり増大させずに上天板2のスライド動作を実現することができる。特に、スライダ21は上天板2の長手方向に沿って取り付けられた細長い金属部材であるので、上天板2のスライド動作をブレの少ないものとするとともに、木製の上天板2の反りをも有効に防止することができる。

【0026】

また、下天板3にはガイド溝に沿って延びる規制部材33を設けており、上天板2に取り付けたストッパ22を規制部材33のスリット332に挿入してスライド移動可能且つ上下移動不能に係合させることで、上天板2の下天板3に対する上方向への離間を規制する上下離間規制部5を形成しているので、上天板2の下天板3に対するスライド移動の安定化と抜け出しを防止することができる。さらに規制部材33は、下天板3の長手方向に延びる金属部材であるため、この規制部材33によって下天板3の反りをも防止することが可能である。

【0027】

なお、本発明は上述した実施形態に限られるものではない。例えば、上記実施形態に係る天板1を、それを支持する一对の脚体TLのうち一方が図7に示すような筐体状の袖構造体TSであるミーティングテーブル（以下、「テーブル」と略称する）T'に適用することもできる。同図においては、袖構造体TS以外の部位は上記実施形態のものと共通であるので、共通の符号を附して説明するものとする。このようなテーブルT'では、袖構造体TS内の収納空間TSsに例えばミーティング時に用いられる物品としてプロジェクタ、資料箱、道具箱等を収納しておき、必要に応じてこれら物品を収納空間TSsから取り出し天板1の上面に載置して使用される。また、ミーティングに参加する人員は、天板1の下方空間が広い側すなわち脚体TL側に集合するのが通常であるので、天板1の下方空間が狭い側である袖構造体TS側における天板1の上面（すなわち上天板2の上面）に前記プロジェクタ等の物品を載置することになる。その際、上天板2と下天板3とを相対スライドさせて開放使用位置Qとすることによって、下天板3の上面に設けた収納部31（トレー31A1、31A2、電源用コンセント31B1、情報用コンセント31B2）を露出させると、同図に想像線で示すようにプロジェクタX等の電気機器の電源の取り回し等が非常に便利になり、ミーティング時におけるこのような天板1上の物品配置及び物品収納だけでなくテーブルT'周りの人員配置を効率のよいものとすることが可能となる。さらに、袖構造体TSの下端部にキャスタを設けるだけでなく、図示しないが袖構造体TSの上端部に下天板3を枢着した構成として、袖構造体TSを床面に対して水平回動させ且つ袖構造体TSと下天板3とを相対的に回動させ得るようにすれば、袖構造体TSの収納空間TSsへの物品の出し入れを簡便に行うことができるようになる。

【0028】

また、上記実施形態及び変形例では、移動機構を上天板が一直線状にスライド動作するものとしたが、上天板が回転動作を伴ってスライド動作するような構成とすることも可能であるし、その動作もスライド動作に限定されるものでもなく、固定された上天板に対して下天板を移動させるような移動機構を採用することも可能である。また、上下離間規制

10

20

30

40

50

部は、移動機構の構成部品を利用しない独立した構造からなるものとしても構わない。さらに、上天板及び下天板の形状も任意に変更することができ、例えば下天板が上天板よりも小さいものであってもよい。その他、各部の具体的構成についても上記実施形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【図面の簡単な説明】

【0029】

【図1】本発明の一実施形態を適用したテーブルにおいて通常使用位置を示す斜視図。

【図2】同テーブルにおいて開放使用位置を示す斜視図。

【図3】同実施形態における移動機構を特に示す概略的な平面図。

【図4】同移動機構を示す拡大平面図。

10

【図5】図4におけるA - A線断面図。

【図6】同B - B線断面図。

【図7】同実施形態を適用したテーブルの変形例において開放使用位置を示す斜視図。

【符号の説明】

【0030】

1 ... 天板

2 ... 上天板

3 ... 下天板

4 ... 移動機構

5 ... 上下離間規制部

20

21 ... スライダ

31 ... 収納部

31A1, 31A2 ... トレー

31B ... コンセントホルダ

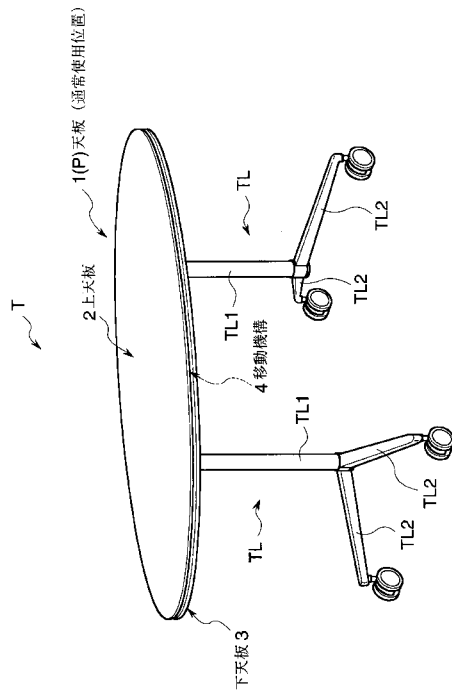
32 ... ガイド溝

33 ... 規制部材

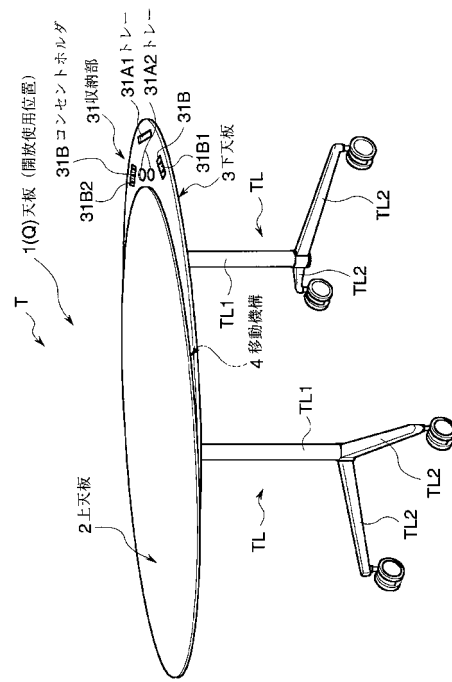
P ... 通常使用位置

Q ... 開放使用位置

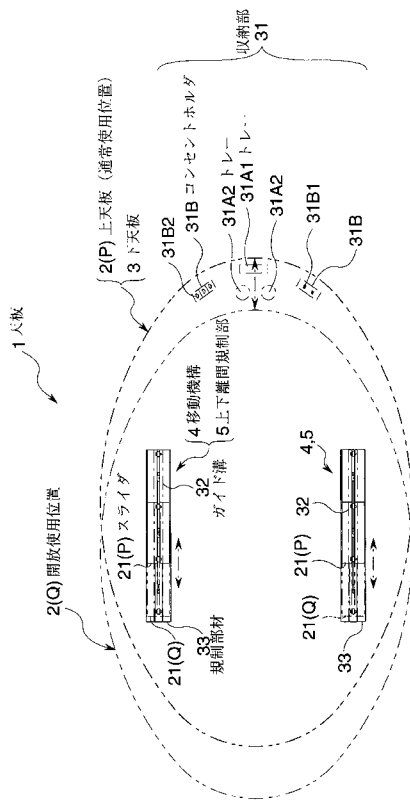
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

